



報知新聞 大阪の孤兒院

二百名の孤兒を養ふ
創立者たる小林勝之助氏が死に瀕しての
請ひを容れ慈善界に身を提げんと決心し
た歌子女史は明治二十五年七月に立教女
學校を創設し、爰を負つて故郷を出てから
春風秋雨に十年、海山百里を隔て一片
の書信に安否を知るより外に兩親の温容
に接する機會のなかつた女史は這度新

生涯に入るに際し赴任の途路せめ

ても兩親に所志を告げんものと久調で越
前大野村に歸省した、兩親は涙り固つた
眞宗の信徒殊に孤兒院と云ふものが尊敬
すべき事業であるとは知らぬ身の十年目
に會つた女史が蛇蝎のやうに思つてゐる
基督教を信じ然も女學校の教師として何
不足なき位置棄てて孤兒の世話に終身を
任せると聞き一度は呆れ二度は怪しみ是
非に女史の決心を諷へさうと或は兩親自
から或は親族を頼み種々に努めたが女史
の心は石にあらざれば轉ばす能はず、

妾は死んだもの斷念

てくたさ
いと堅く執つて動かぬ兩親もそれ程迄
に思ひ込んだ事なら其孤兒院とやらを立
派に仕果せて人の爲め世の爲め働かばよ
いと許しを得て越前より遙々兵庫縣播磨
國赤穂郡矢野村の博愛社の人となつた、
當時同社の光景は實に慘憺たるも

ので事業は未だ緒に就かず熱心なる創立者
は死亡する不幸は當に之に止らず創立者
の遺産は慈善事業を悦ばざる勝之助氏の
次弟が相続し季弟已之助氏以下收容され
て居た孤兒の一群は殆んど衣食に

も窮する悲境に陥り道の女史も

此急を救ふに力を盡し中々に事業の發展
を謀る餘裕がなかつた、然しながら成功
は堪へ難きを忍ぶにありと覺悟した女史
は困難と戦ひ窮迫を排しつゝ徐むるに改
善の策を講じながら社運の前途に考慮を
廻らし邊鄙の所にあつては此上の發達は
覺束ない寧ろ繁華の地に移轉し廣く世人
の同情に訴へるこそよけれと故勝之助氏
の親友阿波松之助氏の助力を得て阿波氏
の住宅なる大阪府西成郡大仁村に

大阪府

轉じたのか二十七年の三月であつた、此
頃博愛社には實之助氏の外に六名の孤兒
を扶助してゐたが糊口の資を寄附に俟つ
ことは深く女史の嫌ふ事として先づ阿波氏
から六段歩の田畑を借り之を耕耘して女
史ども七名の糧食を獲んものと試みた
が何れも有るに甲斐なき女子供とて耕す
業の思ふに任せず困憊の極は家族

擧げて食を絶つ

ふるに病魔は此憐むべき一家を襲ひ三兒
は腸胃扶斯に罹りて遂に二名まで病死を
遂た、此間に處して女史の心遣ひは實に
名狀するに語なきほどの骨折で辛くも社
運を支へ二十九年の秋には新に五名の孤
兒を収め女史に立つて孤兒を勵し六女

ことは深く女史の嫌ふ事として先づ阿波氏から六段歩の田畑を借り之を耕耘して女史も七名の糧食を獲んものと試みたが何れも有るに甲斐なき女子供として耕す業の思ふに任せず困憊の極は**家族**

擧げて食を絶つの惨状に立到り加ふるに病魔は此憐むべき一家を襲ひ三兒は鷹室扶斯に罹りて遂に二名まで病死を遂た、此間に處して女史の心遣ひは實に名状するに語なきほどの骨折で幸くも社運を支へ二十九年の秋には新に五名の孤兒を収め女史先に立つて孤兒を勵し六段歩の田畑を命の綱と頼み油断なく働き續けて來た三十年に至り女史の堅忍不拔なる人格を内外人の知るところとなり茲に始めて神津村に地を下し千二百坪の敷地を買入れ新に社寮を建て翌三十一年には止餘名の孤兒を収むるの好運とはなつた

隠れたる孤兒院 (下)

二百名の孤兒を養ふ大阪の小林歌子女史

纒に六名の孤兒を收容したゞけで猶且つ飢餓と戦つた博愛社が新に三十餘名の孤兒を收容し然も鹽噌の苦みを脱する迄に社運を進めたのは全く主幹歌子女史が

人格の勝利

である、斯くの如き堅忍、斯くの如き精勵、女史の崇高なる性格は次第に世人の認むるところとなり社會の推重も加つて來て神津村に引移つてからは社業日々順境に赴き博愛社のために喜捨する同情も深くなり孤兒の收容數も多くなり基本金の如きも又多額となり今日では殆んど間然するところなき迄に設備も完成し二百餘名の孤兒を抱へ**模範的成功**として數へらる

に至り現に女史の薫陶を受けし孤兒にして既に社會に出て相當の位置を造り獨立自營してゐる者も少くない、九泉の下起すべくんば曩の創立者たる小林勝之助氏は現今の隆々たる社運を見て自己の遺業の効果を擧げしことを悦ぶと同時に歌子女史の多年の夙勉に向つて感謝するであらう

博愛を生命とした歌子女史は更に多數の薄倅兒を救濟せんものと今日の成功に満足せず只管向上發展の途を講じ昨年五月には婦人の身を以て孤影歐米各國に於ける慈善事業を視察せんと先づ**米國**

渡航

し各都市を歴遊して孤兒院の内容を調査し、足跡の及ぶところ必ず日本婦人の戦時に處する活動と博愛社の目的とを演説し非常の喝采を受けて**約三**

千弗の基本金

を得て矢島楯子女史と共に日本婦人矯風會を代表して萬國婦人矯風會に出席し舊臘を以て無事歸朝されたが、女史は此旅行中米國市俄古の演説會に於て**無名の二婦人**

舎を増築

し二婦人を紀念するため

市俄古館

と名け殘餘の金では別に敎會を新築せんとして目下之が計畫中である

二十七年中に立敎女學校の敎職を擲ち博

節制と、博愛社が、三十餘名の孤
兒を收容し、然も囑贈の苦みを脱する迄に
社運を進めたのは、全く主幹歌子女史が
人格の勝利である、斯くの如き
堅忍、斯くの如き精勵、女史の崇高なる
性格は、次第に世人の認むるところとなり
社會の推重も加つて來て、神津村に引移つ
てからは、社業日々に順境に起き、博愛社
のために喜捨する同情も深くなり、孤兒の收
容數も多くなり、基本金の如きも又多額と
なり、今日では殆んど間然するところなき
迄に設備も完成し、二百餘名の孤兒を抱へ
模範的成功として數へらる

に至り、現に女史の薫陶を受けし孤兒に
して、既に社會に出て相當の位置を造り、獨
立自營してゐる者も少くない、九泉の下
起すべくんば、曩の創立者たる小林勝之助
氏は、現今の隆々たる社運を見て、自己の遺
業の効果を擧げしことを悦ぶと同時に、歌
子女史の多年の屢勉に向つて感謝するで
あらう

博愛を生命とした歌子女史は、更に多數の
薄倖兒を救濟せんものと、今日の成功に満
足せず、只管向上發展の途を講じ、昨年五月
には、婦人の身を以て孤影歐米各國に於け
る慈善事業を視察せんと先づ**米國**に

渡航し、各都市を歴遊して、孤兒院の内
容を調査し、足跡の及ぶところ必ず日本
婦人の戦時に處する活動と博愛社の目的
とを演説し、非常の喝采を受けて、**約三**

千弗の基本金を得て、矢島楯子
女史と共に日本婦人矯風會を代表して、萬
國婦人矯風會に出席し、舊臘を以て無事歸
朝されたが、女史は此旅行中、米國市俄古
の演説會に於て**無名の二婦人**

から贈られた**千弗**で、新春早々**一寮**
舎を増築し、二婦人を紀念するため
に**市俄古館**と名け、殘餘の金では
別に教會を新築せんとして、目下之が計畫中
である

二十七年中に立教女學校の教職を擲ち、博
愛社に身を投じてから**前後十三**
年、然も一日の如く力を盡し、難中の難た
る慈善事業を大成したる歌子女史の如きは、
洵に得易からざる女傑であると同時に、
此一事だけでも千載に傳ふべきものある
に、女史は孤兒院のみで足れりせず、別に
西成郡上福島北二丁に**愛隣夜學**

校と云ふを設立し、就學し能はざる幾多
の貧民の子弟を集めて、普通教育を授け居
り、更に日露戦役後は、廢兵及び軍人遺族
の慰藉に力め、現に大阪婦人矯風會々長と
して、慈愛の權化の如く、欣慕されてゐる、
若し大阪に於て他に誇るものありとすれ
ば、何人も歌子女史を第一に推すに躊躇せ
ぬのである (完)



歸朝せる林歌子 (上)

博愛社々母の談

基督教主義を標榜して西成郡津村に宏大なる孤兒院を設立せる大阪博愛社の社母林歌子女史を北區上福島北通三丁目なる其の事務所を訪ふた女史は折りよく事務所にありて早速面會を快諾せられたので取次の年若き女中に伴はれて階上の一室に入り待つ程もなく静かに襖を開いて入り來つたのは即ち女史である四十前後の色白く凛たる面持ち一見して誠實慈愛に富んだ

女史の性格

を伺ひ知るゝとが出來る女史は元福井縣越前國大野郡大町の人で明治十年福井縣師範學校に入り業を卒へて後ち同地の小學校に職を奉ずるゝと五年其の後東京に出でて基督教宣教師フルベッキ氏の家庭教師となりて専ら日本語を教授し約一年を経て更に同市の築地立教女學校に教鞭を把る事となつた然るに此時適ま兵庫縣播磨國赤穂郡矢野村の小橋勝之助氏が獨力を以て博愛社といふものを起し運命の神に見放されて入るに家なく出るに衣なく寒苦窮乏に泣つゝ餓死を路傍に彷徨ふ悲惨なる孤兒を救済すべく大に畫策する所があつたが不幸にして氏は其後間もなく病魔の犯す所となり充分に社務を経営する事が出來ないので誰か萬事を托するに足る人物は無いであらうかと友人なる巖本善治、大須亮一の兩氏に相談したのであつた當時兩氏は深く其の人となりを欽仰して居る所のは

女史を推薦して此人ならば

必ず適任

であらうと直ちに其の旨を女史に通じた所が女史も大に小橋氏の事業を賛成して快く之を承引する事となり乃で明治二十五年立教女學校を辭して博愛社の社母となり尋で勝之助氏が病没するや氏の實弟實之助氏と共に織子其の社務を執掌して今日まで十六年間初志を一貫して更に變る所なく現今では府下西成郡津村大字三津屋に立派な收容所を建築し寢室、教場、作工場、食堂、病室、炊事場と殆ど遺憾なく設備が完全し百數十名の孤兒は温き其保育の下に嬉々として收容されて居るのである而も女史は之を以て満足するのではなく更に勇往邁進して倍す此事業を大成しなければならぬとの大抱負で一昨年五月米國に

渡航し親しく同地の慈善

事業を視察して傍ら社友を募集しつゝあつたが長途の旅行に疲労もなく舊職中無事歸朝せられた記者は初対面

ならぬこの大抱負で一昨年五月米國に渡航し親しく同地の慈善事業を視察して傍ら社友を募集しつゝあつたが長途の旅行に疲労もなく奮職中無事歸朝する、幸となつた記者は初對面の挨拶をなしたる上渡米中の所見を聞くべく其談話を促したるに女史は片頬に優しき笑を浮べつゝ左の如く語られた

私は一昨年の五月廿九日に本國を出發しまして六月十七日道中恙なく晚香坡に上陸しました其れからシャトル、タコマ、桑港などいふ太平洋沿岸を十一月四日迄の間に巡遊しましたが御存じの通り此の邊は日本人が澤山在留して居りまして、當時は未だ日露戦争が片付いて居りません、前でありましたから、在留中の同胞は

何れも非常に本國の事を

氣に掛けて故國の形勢は何うであるとか戦争は決して負けるやうな事はあるまいでせうとか到る處頻りに日本の状況を聞かれますものですから私は自分の觀察して居ります事の充分にお咄して之と同時に博愛社が出征軍人に對しても一の後援であるべき孤兒收容の事などを申し上げました所が全く思ひ掛けない非常の歡迎を受けまして其れが爲め日本に居るのさ少しも異つた所がない様な感じが致したのであります

婦人矯風會の支部をも組織する、と云ふ事になりました其れからポートランドでも佛教青年會を借り受けまして演說會を開きました幸に第二の婦人矯風會支部が設立されましたので桑港へ歸著しましたのが丁度其年の八月三日でありました此處で一ヶ月間計り滞在して其間も同港の近くなるオークランドで演說幻燈會を開きました同地の新聞社では非常に同情を寄せられましたポートランドには一の孤兒院がございました私に之を見せて戴きました此處には男子のみ凡そ百二十三人許りも收容してありました其建築と云ひ設備と云ひ實に完全したもので見れば見る程感服に堪へないのであります

歸朝せる林歌子 (下)
博愛社々母の談

毅然として凛々しき風貌の中にも自から言ひ知れの愛嬌を湛へたる女史は心私かに天父の慈を感謝するものゝ如く倦まず通らず諄々として其語を繼いで曰く「其れから桑港に居りましたのが約一ヶ月、九月の七日に同地を出立してフレスノーに行きました、此地は佛教が非常に活動して居りまして耶穌教のやうに到處に教會堂を設けて布教

(未完)

博愛社々母の談

毅然として凛々しき風貌の中にも自から言ひ知れぬ愛嬌を湛へたる女史は心私かに天父の慈を感謝するものゝ如く倦まず遁らず諄々として其語を繼いで曰く「其れから桑港に居りましたのが約一ヶ月、九月の七日に同地を出立してフレスノールに行きました、此地は佛教が非常に活動して居りました、耶蘇教のやうに到る處に教會堂を設けて布教に勉めて居ります、私がフレスノールを出発してロスアンヂェルスに著きましたのは丁度十一月の三日即ち天長節の祝日でありましたから同地在留の御方は聯合して盛大なる祝賀式を舉行されましたが其の壯嚴盛大なる光景を言うては殆ど言語にも悉されん位で中々日本などに於ては觀るふごの出來ぬ壯快な式典でありました此處でも私はシヤトルの如く演説會を開きました、幸にして百七十一弗五十仙の寄附を得ました其れから十一月の十五日に市俄古へ行き六日間滞在して紐育へ参りましたが同地在留の御婦人方は大變に歡迎して下さい又々幻燈會と音樂會を開く事になりました之には高木男爵、高峰博士なども容易ならぬ御盡力で結局四百弗と云ふ大金を得ました私ば此の時何程嬉しかつたか知れませんが、直ぐ

本國へ送金して豫て計畫

中の病室

を建てるふごにいたしました、御覽下されば分りますが唯今幼児の收容所に宛て、ある最も新しい棟が其れで紀念の爲めに此の病室を紐育館と命名してあります、同市では晝間小供を預かる保育園と云ふものを見ました、紐育を出發して華盛頓へ行きましたが、此處には慈善事業として驚ろくべき規模の宏大なるものがあります、其れはデエラード、カレエヨ申しまして廣潤なる敷地に禮拜堂や圖書館や食堂やなどが約を十五六棟もありまして男子計り約二千名程も收容して居ります、收容者の年齢は六歳以上十八歳以下で中學程度の學科を授けた、實業教育を施して居ります、其の程類は車輛、電話機の製造、鍛冶、大工、製圖などで何れもそれ／＼専門の擔任教師が附いて居ります、孤兒が實習の際製作した物品は總て其所有

權を孤兒に與へまするので彼等が

社會に出ました時其業を起す資本の一部分は實習中の製作物が儘に其れであります、此孤兒院は今から百二十年以前に創立されましたので當時佛國より華盛頓へ來た一青年ジェラードと云ふ人がありましたが刻苦

勉勵の結果一生に亘る巨萬の財産を作り出し華盛頓に於ても最も有名なる一人となりましたが自分は幼時不幸にして父を喪ひ充分なる教育を受ける事が出来なかつた爲め他の少年が夢にも知らぬ非常なる運境に沈んで多くの艱難を凌ぐ事になつたといふ其感覺が太く腦裏に印象したものと見えまして

臨終の際に我が一切の財産

の少年が夢にも知らぬ非常なる逆境に沈んで多くの艱難を凌ぐ事になつたといふ其感覺が太く腦裏に印象したものと見えまして
臨終の際に我が一切の財産
を擧げて世の惑へき**不幸の少年**
を**收容すべく一大孤兒院**
設立して呉れいと遺言したのであり

すジエラードカレッジの歴史は即ち斯様な譯で其整頓して居るのも理由のある事と存じます其から華盛頓から少し離れた所に州立白痴教育所と云ふのがあります收容者は千六百名餘で上中下の三階級を附て上の部には白痴の内でも比較的思慮分別のある者許りを集て普通教育を施し中以下の部では腦力を用ゆる事の尠い繪畫とか機械とか或は織物裁縫杯と云ふ手の働によつて出来るものを教へて居られますがなか／＼成績も好く此一大家族の食中から洗濯掃除に至るまで一々愚鈍なる收容者の手に分擔されて丁と始末がつけられて居ります之まで仕上られたについては教師や監督方の苦心も一通りでは無かつたでせうと私はホト／＼感心しましたのであります、此の兩孤兒院では無論寄附金などを一文も集めませんでも宜しいので基本金の利子だけでも充分に經費の全部を支出して猶餘があるのでございませす華盛頓に居りましたのは丁度暑い最盛りでございしましたので私は十年間はとも東京で交際して居りましたミス、カーターと云ふ婦人と偕にメーン湖へ避暑旅行に行きました但し同地は避暑の好適地で夏になると米國人の多くは此の地へ旅行するのだからです設備もよく行き届いて居りまして私の妹に感心しましたのは諸方の孤兒院が孤兒を引連れて避暑旅行に出掛けます一事では是等の孤兒を收容するやうに基督教會より立派な建物が澤山に建設されてあるのであります私は茲に數ヶ月滞在しましてミセスカクランと云ふ貴婦人と懇意になりましたが非常に同情を寄せられました其令嬢から

六千弗の寄附金を得ました其

れから昨年の十月には市俄古へ引返してケンブリッジに開催された世界婦人矯風會へ日本國の代議員として出席しましたが此處で特に日本から代議員として出席されました矢高會頭にね目にかゝる事が出来ました同會に出席した後シャトルに歸り博愛社から勞働に行つて居る三人の孤兒に面會して其壯健な顔を見まして十二月五日に無事本國へ歸つたのであります何うも彼國の慈善事業を見ましては唯だ羨ましいと云ふ計りで到底彼國の様な眞似をするとは出来ません
せんが兎に角當方の博愛社も私等の理想通りのもの丈にはしたいと其れ許りに日夜肝膽を砕いて居りますと語り了つて記者に一瞥を與へられたる其眼中には女史が百難を排して進まんとする熱心の狀が歴々見え透て居るのであつた(晚江)